

4. 地域住民を講師とした「地域づくり学習会」の実施 ～コロナ禍以後の地域づくりを見据えて～

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 向井 健

(1)活動計画

現在、人口減少社会へと突入する中で、地域の担い手が不足しており、如何に「持続可能な地域」を作っていくかということは、極めて重要な課題となっている。高齢化する地域の中で、どのようにコミュニティを維持、再生していくのが大きな課題である。さらにはコロナ禍において人と人との関係性が希薄になりゆく中で、どのように地域の衰退を食い止めるのかということは喫緊の課題といえよう。それは観光ホスピタリティ学科として地域づくり活動に取り組んできた上土町会、巾上西町会においても同様であり、地域リーダーの高齢化も著しく、コロナ禍で商店街としても大きなダメージを受ける中で、どのように地域づくりの継承と活動の展望を描き出していくことができるのか課題になっている。そうした現状を踏まえ、本地域連携活動では、以下の点について取り組んでいくこととする。

①まちづくり学習会の開催

これまでの地域に蓄積されてきている住民の知恵を、世代間継承しつつ、コロナ禍以後の地域の担い手を育てることを目的として、学生と地域の住民・関係者がともに学習を行い、今後のまちづくりの実践につなげていく『まちづくり学習会』を連続講座として開催(全6回、10名を予定)する。

この「まちづくり学習会」の講師には、これまで地域づくりに尽力をされてきた住民を講師として招き、学生のほか、地域の若い世代にも声をかけて学習会に参加していただくことによって、これからの地域づくりの継承と展望をしていくことに寄与できるのではないかと考える。

② まちづくりの先進事例地への視察の実施

上記の1)における「まちづくり学習会」において見出された課題を探究していくことを目的として、先進地視察を行う。視察には学生のほか、「まちづくり学習会」の講師をされた住民や地域の若い世代にも声をかけ合同で実施する。視察時期は、2023年2月頃を予定しており、視察先としては都市コミュニティの再生に取り組む「シブヤ大学」などが候補

である。

③まちづくりリーフレットの作成

上記の①における「まちづくり学習会」において見出された成果を踏まえ、専門研究を受講している学生を中心として記録・整理を行い、「まちづくりリーフレット」を作成する。

(2)活動内容

2022年度においては、地域づくりの活動を進めていく中で、対象エリアを上土町に限定し、特に「上土における映画を通したまちづくり」に絞って、地域づくり学習会に関わる地域連携事業を進めていくこととした。これは、何よりも2022年度においても新型コロナウイルス感染症の感染状況への留意が必要な状況が続いたことによって、県外への視察や対象を広げた活動の実施が現実的ではなかったことによるものである。しかしながら、積極的な理由としても、コロナ禍以後の地域づくりという観点から考えてみた時、過去に上映された映画ポスターが松本電気館から大量に掘り起こされたことや、夏の地映画上映会の実施を契機として映画の街づくりに関する意見交換が活発に行われたことから、それらのプロジェクトを前進させていくための地域づくり学習会への取り組みが求められた。

そこで、2022年度においては、地域づくり学習会の実施内容を、地域住民の方たちが映画とまちとの関わりについて語りうるための情報整理と活用集中して取り組むこととしたいと考えた。このような作業を行っていくことで地域住民自身が自らの街を語る基盤を作ることができ、さらには、地域づくりのニーズにおいても有用性があると考えたからである。

2022年度において、「地域づくり学習会」として、以下の事業を実施した。

①映画「ひまわり」上映会+映画の感想を語り合う会(2022年9月18日)

ウクライナを舞台とし、各地で再上映が行われている映画「ひまわり」の上映会を、上土劇場で行った。上土劇場は、かつて映画館として活用されてきた場

所であったことから、そこで地域の方たちが映画を観ることは、上土と映画殿町の関わりについて思い起こしていく機会となった。さらには、映画上映会と同時に、上土のふれあいホールを活用して、映画「ひまわり」の感想を、地域住民の方たちと語り合う会を開催した。そこでは、地域住民の方たちからかつて映画「ひまわり」を観た思い出が語られるとともに、今回、地域の方たちとともに観た映画「ひまわり」の感想を共有しあい、映画に込められた思いなどについての感想を出し合うこととなった。なお、この映画上映会の開催にあたっては、上土と映画との関わりについてまとめたリーフレットを作成することができ、来場者に配布を行った。



映画「ひまわり」の感想を語り合う

②トーク&ライブ「時をかけて、映画の街“上土”のこれまでとこれから」（2023年1月29日）

①の映画上映会の取り組みを通して、上土にとって「映画の記憶」が、「地域の記憶」とイコールであるということを改めて認識することとなった。そうした中で、かつて映画館として上映をしていた松本電気館の倉庫に眠っている大量の映画ポスターの存在が明らかになり、そのポスター整理を行うこととした。この目的は、古い映画ポスターを活用することで、住民の映画に関わる「語り」を引き出すツールとしていくことができるのではないかと考えたからである。作業にあたっては、カメラで映画ポスターの図柄を収めるとともに、映画ポスターごとの上映年、監督、主演、ポスターサイズ、状態を記録するデータベース化と、ナンバリングをした段ボール箱にまとめなおす作業を行った。松本電気館に保管されている映画ポスターは7,000枚を越え、その年代も1950年代頃から2000年代に至るまで、多種多様なものがあることがわかった。この整理の結果を基に、

上土と情報共有をすることで、まちづくり学習会に繋げる素材としていくことができたのではないかと考える。



松本電気館に保存されていた映画ポスターの整理をしている様子

③トーク&ライブ「時をかけて、映画の街“上土”のこれまでとこれから」（2023年1月29日）

映画にまつわる記憶を整理立てて住民の方たちが語る学習会を計画するのには、少々難があったことから、そのような「語り」を引き出すきっかけを作ってくれる地域づくり学習会の講師として、映画音楽に造詣の深い志田一穂氏（シーサイドシアターDJ）にご協力をいただき、映画音楽を切り口として、時代ごとの映画の特徴、映画と町との関わりについてご講演いただいた。

この地域づくり学習会では、上土地域住民の方たちはもちろんのこと、映画の地域づくりに関心を持つ方たちが多く集まり、上土の映画とまちとのこれからを考える機会とすることができた。またトークライブ後は、地域づくりに向けた情報交換が行われ、映画の街づくりに向けた様々な意見が活発に交されることとなった。また志田一穂氏の講演は、一般の方たちにも広く聴いてもらうことができ、公開講座としての位置づけとしても意味を持たせることができた。本講演については、信濃毎日新聞や市民タイムスにおいても報じられ、映画の街としての上土のイメージを高める機会にもなった。

確かに、今年度の地域づくり学習会の事業においては、直接的には、地域住民の方たちを講師とする事業展開にならなかったものも多い。しかしながら、地域住民の方たちのまちや映画への「語り」を引き出す基盤となる情報の整理や活動を展開することができたと考える。また上土商店街において、「映画を通した地域づくり」の方向性を指し示すことがで

き、これからの地域づくりのスタートラインを描くことができたのではないかと考える。



志田一穂氏によるトーク＆ライブ

(3)活動の成果

2022年度における「地域づくり学習会」の事業を通じた成果としては、下記のような点が挙げられる。

第1に、本事業を通して、松本電気館の再生に向けた取り組みの活性化につながったことである。松本電気館再生の取り組みは、数年ほど、建築上の問題から行き詰っていたが、今回の映画上映会やポスター整理、トーク＆ライブの実施によって、上土の地域づくりにとって映画は欠かせないものであるという認識を広げることができた。その結果、マツモ

ト建築芸術祭での松本電気館の活用など、プラスの派生効果も生み出すことができたと考える。

第2に、地域の方々の映画への思いを引き出すことができた点である。上土の方たちにとって、映画についての思いは並々ならぬものがあったが、映画音楽に造詣の深い志田一穂氏を間にはさむことで、自然と映画やまちに対する思いを引き出していくことができた。このことも、上土の地域づくりの活性化につながる一助となった。

第3に、今後の地域づくり学習会において語り合う素材として、松本電気館の倉庫の中に未整理のまま放置されていた過去の映画ポスターを整理することができたことである。映画のポスターを共有することを通して、映画を上土で観た町の記憶を呼び起こすツールとなっていくことが期待できる。また、今後の地域づくりでの映画ポスターを整理したデータベースの活用が期待される。

(4)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

- ・映画ポスターの整理作業が完了次第、上土にて「成果報告会」(ポスター整理の成果を住民の方たちと共有)を実施する。2023年度に実施予定。
- ・映画ポスターのデータベースについて、地域住民の方たちとデータを共有し、地域づくりに活かしていく。

5. 学生カフェプロジェクト

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 白戸 洋

(1)活動計画

学生カフェプロジェクトは、2015年に本学と上土町の街づくり協議会が連携し、コミュニティの拠点である「カフェあげつち」を中心として地域の関係者と学生が協働してまちづくりに取り組む事業である。これまでの取り組みによって、かつては「シャッター通り」となっていた商店街は、空き店舗がほぼ無くなり、活発な活動を展開している。しかし、コロナ禍によって本事業も大きな影響を受け、2021年度は感染防止のため前期には事業を実施できなかったものの、状況が改善した後期以降には活発な活動が行われ、ほぼ計画通りの成果をあげることができた。2022年度は、上土商店街振興組合の50周年記念

事業を予定しており、2021年度も学生も参画し10月以降12月は毎週のようにカフェを拠点にその準備等を行ってきた。

一方で、2021年度に実施予定であった駅西でのカフェ事業については、高校の行動制限の範囲で南安曇農業高校の高校生カフェが女鳥羽川の草刈り(春・秋)にあわせ2回実施された。また、11月に開催されたデパートユニットに関連した企画を2回実施することができた。

以上の実績とコロナ禍に関わる状況が改善傾向にあることを踏まえ、2022年度においても学生カフェの取り組みを実施する。2022年度は、上土町商店街の50周年事業に向けて、高校生と大学生が連携した